

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 木村 敦

研究課題		認知症高齢者の摂食支援に関わる心理学的要因の検討
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>認知症高齢者の生活支援において食事のケアは非常に重要である。認知機能の低下により食品や食事の場に対する認知や肯定的感情が低下し、栄養失調等の問題が生じやすいことから、食品認知を高め摂取量増加に寄与する要因とその心理学的メカニズムを明らかにする必要がある。このような問題意識のもとで認知症高齢者の食支援に関する先行研究をレビューしたところ、メニューアレンジメントにおいて「ソース付加」の有効性が頑健に示されているものの、そのメカニズムとしては視覚的コントラストなど知覚的要因と食事の記憶想起など高次認知要因の両者が指摘されており、精緻な検討はなされていないことが明らかとなった。そこで本研究は、国内の認知症高齢者を対象として、ソースのどのような要因が摂取促進に寄与するかを実験的に検討することを具体的な目的とした。</p> <p>実験は介護老人保健施設入所者で嚥下機能に問題のない認知症高齢者を対象として実施した。施設のおやつにてソースの有無を操作した焼き菓子を提供して摂取量を測定した。実験1では高対比色（チョコレート）ソースを使用し、その1ヵ月後以降に実施した実験2では低対比色（アガベ）ソースを使用した。</p>
	研究成果	<p>実験の結果、ソースの種類に関わらずソース有の方が統計的に有意に摂取量が多かった。ソースをつけて食べるスタイルに慣れていない国内の対象者においてもソース有の方が摂取量が多かったことや、低対比色ソースでも効果があったことから、ソースによる摂取促進効果は記憶や食文化といった高次認知要因よりも知覚的要因の影響が大きいと推察される。また、高対比色ソースの方がより摂取量が多いことが示されたことから、視覚的コントラストやフレーバーなどの知覚的要因が加算的に摂取量に影響を及ぼしている可能性が示唆された。</p> <p>これらの成果の一部は、第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会にて「ソース付加が認知症高齢者の食品摂取に及ぼす効果についての心理学的検証」という題目で口頭発表セッションにて報告した。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表：木村敦・山口浩平・澤田直子・佐藤雄介・中川泰秀・松田結花子・井上統温・玉木一弘 「ソース付加が認知症高齢者の食品摂取に及ぼす効果についての心理学的検証」、第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、2018年9月8日、仙台国際センター。
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	なし